

# 令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

保護者、子ども、教職員のアンケートをもとに、学校では令和6年度の活動を自己評価し、次年度の改善案を作成しました。さらにこの一連の活動を、学校評議員のみなさんに「学校関係者評価」をしていただきました。その結果、以下のような評価をいただきましたので報告いたします。学校では、よりよい教育をめざし、保護者・地域の皆様と力を合わせて進んで参ります。次年度もご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 1 本年度の重点目標

子ども一人一人の笑顔があふれる 学校の創造 ～笑顔 キラめく 前田の子～

## 2 本年度の経営方針

「伝える力」「受け取る心」の育成 「自分は大切にされている」と実感できる学校づくり～子どもたち一人一人に自信と安心感を

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善案の適切さ	
豊かな心の育成・健全な身体への育成	〈重点目標〉 重点目標「子ども一人一人の笑顔があふれる学校の創造」の実現に向け、子どもが主役の教育活動を行っている。	A	【継続】①教育活動全体を通して、教職員が協働して目標の具現化に努める。②一人一人が安心して過ごせる学級を基盤に、お互いの良さやがんばりを認め合う活動を増やすことで、自己肯定感や有用感を高める。	A	A	
	〈挨拶〉 挨拶することの大切さを伝え、友達や先生、地域の人に進んで挨拶をする子どもを育てている。	A	【継続】①学級活動や道徳の時間なども含め、日常的に挨拶を意識させるための手立てを充実させる。②係や委員会での取組など児童の自発的な活動となるように支援する。	B	A	
	〈自主〉 学級活動や行事、児童会活動を工夫することで、意欲的に取り組み、楽しさや達成感を感じながら活動する子どもを育てている。	A	【継続】①学級の係活動、学年の集会などを自分たちで計画し、実行する経験を数多く積ませる。②委員会の活動内容を見直し、達成感を味わわせられるような関わりや支援を続ける。	A	A	
	〈責任・思いやり〉 学級・学年での活動やキラメキ活動などの中で、みんなをリードしたり相手の立場に立って考えたりする子どもを育てている。	B	【継続】①活動を企画したり進めたりすることで相手を意識し思いやりをもって行動する。また、してもらったことに対して「ありがとう」と素直に感謝する、といった活動や経験をたくさん積ませる。	A	A	
	〈体力向上〉 体育では適度な運動量の確保に努め、また、休み時間の遊びを奨励したり、運動する機会をつくり出すなど、子どもの体力の向上に努めている。	B	【改善】①これまでの取組に加え、冬期間の運動場の設定を図る。②委員会が行うイベントだけでなく、自然と体を動かせるような環境づくりをする。 【継続】①全学年で新スポーツテスト(3種目)を行い、記録化する。自分の目標をもたせて取り組む。②体育の授業改善(運動量の確保)を図る。	B	A	
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に厳しい自己評価と感じる。子どものよさを認め、称賛する学校側の基本姿勢が子どもたちに伝わっている。個々の表現力の豊かさ、遊びを核とした体力づくりの取組のすばらしさを感じた。</li> <li>・豊かな心を育成するために様々な工夫をしながら取り組んでいることが分かる。</li> <li>・制限が多かったコロナ期の「自己肯定感」の回復として、「挨拶」や自発的な「つながりの回復」が求められたが、集団行動や集団通念の急な変化は難しく、自己評価にBが付くのも当然である。</li> </ul>					
学ぶ力の育成	〈日常授業〉 学校は、分かる・できる・楽しい授業づくりの充実に努めている。	B	【継続】①児童自らが問いをもち、課題解決したくなる、他者へ伝えたい学習展開の工夫、教材教具の工夫に努める。②友達と共同して課題解決に取り組む中で、お互いの考えの良さに気付いたり、認め合ったりする場の設定を工夫する。③特別支援教育の視点を取り入れた「授業UD」の手立てを取り入れる。	A	A	
	〈日常授業〉 ChromebookなどのICT機器も適切に活用しながら、確かな学力を育むよう努めている。	B	【継続】①ICT機器を使った学習指導の研鑽を積み、自分の考えをもつ、交流するなど様々な場面に適切にICT機器の活用を図る。②自分の困りや苦手の克服、得意なことをさらに伸ばすために、Chromebookを有効活用する。	A	A	
	〈学習習慣〉 家庭での学習習慣(家庭学習など)が身に付くよう取り組んでいる。	A	【継続】①低・中・高学年のねらいや取り組み方について明確にし、毎日継続して取り組む習慣づくりに努める。②中学年から高学年にかけて、自主学習(自分で考えて取り組む学習)を計画的に進められるように支援する。	A	A	
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ力をどれだけ身に付けたのか、どれだけ主体的にそれを伸ばそうとしたのか、その検証を加えることも大切である。</li> <li>・学びの本質は、自ら問いをもち、課題解決する動きだと思ふ。そのためには、一人一人の思いや考えを受け止める教師の対応力を高めることが必要となる。</li> <li>・ICTの導入などによる学習用具の変化は、学習効果の変化と結び付けて評価できるほど定着はしていないだろう。時間はかかるが、多様な人とのつながり、他者と自己の多様性理解と道具や技術の使いこなし方を理解することも大切である。</li> </ul>					
読書習慣の育成	〈読書〉 学校は、朝読書の定着を図り、子どもが読書に親しむよう取り組んでいる。	B	【継続】①全校一斉の朝読書を実施し、進んで読書をする子どもを育てる。②図書ボランティアによる読み聞かせ(月1回)を継続する。③本に親しむ機会を増やしたり、読書意欲を喚起する取組を行ったりするため、より一層、開放図書館との連携を図る。	A	A	
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の習慣化はもう十分に身に付いていると思う。いろいろなジャンルの本を率先して読めるようになると興味の幅も広がっていく。</li> <li>・読書は、読む・書く・話すという自己表現や他者理解、自己意識の深化において深く人の知的発展・発育と結び付いている。「読み聞かせ」を上級生が下級生に実施することでそうした能力が育っていくのは良いことである。</li> </ul>				
信頼される学校の創造	〈教育相談〉 子どもや保護者の声を聞き、親身に相談にのったり適切に対応したりしている。	A	【継続】①子どもたちの生活の様子、「シャポテンログ」への書き込みなどから困りを把握し、対応する。②児童への年3回のアンケートや聴き取りの内容、保護者からのご意見などを多くの教職員で共有し、迅速かつ適切に対応する。	A	A	
	〈情報発信〉 お便りや学校ホームページ、「すぐーる」等を活用し、子どもや学校の様子をよく知らせている。	A	【継続】①週一回、学校ホームページで子どもの活動の様子(写真)をお知らせする。②子ども理解、支援のため、保護者との電話や家庭への訪問による情報の共有を継続する。③学校からのお知らせや案内、緊急連絡は連絡ツール「すぐーる」を有効活用する。	A	A	
	〈教育力活用〉 保護者ボランティアや北海道科学大学等、地域教育力を活用したり専門的な人材を活用したりしながら体験的な教育活動を行うよう努めている。	A	【継続】①興味関心を高めたり感性を豊かにしたり、学習を深めたりするための専門的な人材の活用(出前授業や施設見学・体験学習)を継続する。②保護者ボランティア(今年度はスキー学習)の協力を積極的に得ながら安全な学習の推進を継続する。	A	A	
	〈校内安全〉 適切な生活指導をしたり、校舎・環境を整えたりして、子どもが校内で安全に生活を送れるよう事故防止に努めている。	A	【継続】①学校生活のルールを定期的に子どもたちと確認したり、状況に応じて見直したりしながら、継続的に指導する。②登下校時、休み時間には、玄関前や校内の教室棟を見守り、児童の安全確保に努める。③安全点検(月1回)を実施し、危険箇所の発見、修繕に努める。	A	A	
	〈校外安全〉 危機情報の共有に努めたり危険箇所について子どもに注意喚起したりして、子どもが校外で安全に生活を送れるよう事故防止に努めている。	A	【継続】①安全情報等を「すぐーる」配信で速やかに発信し、保護者との情報共有に努める。②PTAの安全見守り、スクールガードリーダー、交通安全指導員、関係機関と連携し、子どもたちの安全・安心を目指す。	A	A	
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や関係機関、異校種との交流は着実に増えてきていると感じる。</li> <li>・家庭環境の違いから、子どもたちの成長に大きな違いを感じることがある。「子どもの幸せのために」を第一に考えていきたい。</li> <li>・少子化の加速、物価上昇による経済課題・格差の拡大など、学校がおかれた社会環境・基盤そのものが激しく動いている中で、「素直な感情」と「豊かな表現力」をもった児童がすくすくと育っていき素晴らしい。</li> </ul>					

自己評価の観点 A: 達成できている B: もう少し C: 達成できていない  
学校関係者評価の観点 A: 適切に評価している B: 少し適切ではない C: 適切ではない